

震災から 5 年が経ちました。振り返ってみれば、会員それぞれが復興の思いを抱き、何も無くなった被災地域で復興の為、多種多様な支援活動を行い、さらに業務として個々に数多い課題と奮闘しながら沢山の建築を造り上げ、恐らく多くのエネルギーを使い心身とも疲れながら、建築家としてまた JIA の会員として使命感を持ち、建築活動を行ってきたことに敬意と感謝を申し上げます。

しかしながら、復興はまだ終わりが見えません。仮設住宅等に仮住まいされている方、福島原発による被災者の様に地元に戻ることに出来ない人達が未だに存在する現状は、巨大な大災害であったことを痛感させられますが、その中でも、巨大防潮堤建造に象徴されるような、被災者置き去りの土木国家を象徴する復興手法は、多くの問題点矛盾点を浮かび上がらせたことは、疑いのない事実でもあります。その現状を認識しながらも、私達は一步一步、進んで行くこと、被災者、被災地域と向き合い建築家がなすべきことの活動を続けて行くことが大切であると考えます。

また、2020 年東京オリンピック陸上競技場の建築家選定問題では、提案内容や工事費の問題以上にザハ案から隈案へとシフトし、世界に開かれたコンペティションが、最終的には 2 名の建築家しか応募することの出来ない日本的な閉ざされたコンペへと成り下がったことに失望すると同時に、建設会社指導のデザインビルド方式に建築家の存在の危うさを感じ、これからの建築家の職能を考える上で、分岐点となる時代が到来したことを危惧しています。

このような建築家を取り巻く厳しい社会状況下の中で、JIA が目指すところの職能（建築家法・建築基本法）の確立と社会・市民から「必要とされる建築家」「信頼される建築家」として認知されるような活動を JIA 東北支部の会員の皆様と共に推進して行きたいと考えます。

2016 年度 主な骨子 「復興からまちづくりへ」

1. 復興 復興 5 年を節目とし復興からまちづくりへとシフトすることを基本前提としますが、被災 3 県の各地域会の復興支援活動へ引き続き支援すると共に他団体との協同・交流を促進します。
2. 地域会 各地域で行われる公益的地域会活動が支部活動の主体であることを定着させ、その活動が円滑に進められるよう支援します。
3. 会員 新たな会員「正会員・準会員（専門会員・シニア会員・ジュニア会員・学生会員）・協力会員」の獲得と「登録建築家」の未登録会員を登録するように誘導します。
4. 事業 東北住宅大賞は第 10 回の節目、東北建築学生賞は第 20 回の節目の年を迎え、それに相応しい企画を行い開催します。
5. 大会 JIA 東北支部建築家大会（支部大会）は、岩手地域会に主幹して頂き、基石での復興支援活動や被災地状況・現在のまちづくり等が認識できる企画内容として開催します。JIA 建築家大会（全国大会）は、近畿支部主幹で行われ大阪で開催されます。
6. 推進課題 コンペ・プロポーザル等による設計者選定方式を推奨していることを発注者に周知すると共に、コンペ・プロポーザルの主催者を支援する窓口を JIA に設け、一つでも多くのコンペ・プロポーザルが開催されるよう努力します。
また、各地の縮小化する地域社会、人口減少・高齢化社会を見据え、市民と共に考える「まちづくり建築家」「コミュニティ建築家」「歴史的建造物修復や既存ストックのリノベーション建築家」等として、地域のまちづくりへ積極的に参加出来る道筋を造るよう努力します。
7. 会員交流 これまでも交流がある台北市建築師公會、北海道支部等とさらに交流を深め、会員間の交流促進を図ります。
8. 行政他団体 東北公共建築設計懇談会・建築設計関連団体東北サミットや他の会議体を通して、行政・事務所協会・士会・学会・建設業協会等との協力・連携を強化します。